

科目区分：芸術文化課程（音楽文化コース）

授業科目名：ピアノ⑤

対象年次：3年次

ピアノ実技演習を中心とした発展的学習

音楽教育講座・福富 彩子

1. 授業の目的と到達目標

本授業は、古典派中期以降からロマン派及び近代におけるピアノ作品を取り上げ、楽曲構造を理解し、演奏技術と表現力を高めるためのピアノ奏法を学ぶことを目的としている。卒業研究へ結びつく「ピアノ」は、①～⑤までの段階的な履修により、「ピアノ⑤」は発展的内容となっている。到達目標は、課題の実施により、ピアノに対する知識と演奏能力を身につけ、豊かな表現力で演奏できるようにすることである。

2. 授業の概要について

本授業は、芸術文化課程音楽文化コース3回生を対象に後期に開講されている。今期、受講者は7名であり、いずれの学生もピアノの演奏経験を有している。本授業は、演習を中心としており、ピアノの技術・表現の習得には、授業外学習（予習・復習）が非常に重要となる。また、受講者各自の選曲は、これまで取り組んできた課題及び熟達度に応じて、相談の上、決定した。なお、最終試験において、演奏会形式による発表を行った。

1) DPについて

○演奏・作品創作や音楽の学問的研究などで培った知見をもとに、音楽文化に関するさまざまな課題について、適切な対応を考えることができる。（思考・判断）

○音楽文化に関する自己の学習課題を明確にして、理論と実践を結びつけた主体的な音楽活動ができる。（関心・意欲）

2) 演奏課題について

ベートーヴェン中期以降、ロマン派及び近代のピ

アノ作品から任意の1曲。（以下、受講者が選択した課題の一部を記す）

○ベートーヴェン：ピアノソナタ第8番（全楽章）

○ショパン：ピアノソナタ第3番（第4楽章）

○ドビュッシー：映像“水の反映”

前奏曲第1巻「亜麻色の髪の乙女」

○プロコフィエフ：ロミオとジュリエットより

○ショパン：バラード 第1番 ト短調

○ショパン：即興曲 第1番 変イ長調

○ラヴェル：亡き王女のためのパヴァーヌ

3. 授業時に心がけた点

○演奏技術に関して

演奏時には、楽譜に示された情報を正確に表現することの他に、“音色づくり”のための技術を要する。本授業を履修している受講者は、「ピアノ①～④」までを段階的に修得しており、ピアノ演奏に関する基礎的な知識および技能を有している。そのため、本授業では、発展的内容として、高度な技術が要求される“音色づくり”に重点を置いた。具体的には、精緻な打鍵コントロールによって要求する音や和音を作り出すための能力を養うことである。授業時、学習者が演奏しづらいと感じている箇所をピックアップし、その要因を明らかにした上で練習方法をいくつか提案し、毎時の課題とした。

○演奏表現に関して

学習者自身が思考し、そのアイデアを具現化するためのプロセスを授業時に学習できるよう心がけた。受講者が有しているイメージをより具体的なものとするために、楽曲構造及び表現に関する問いかけを行い、表現内容（アゴーギク、デュナーミク、フレーズング等）を楽譜に記してもらっ

た。それらの作業により、自らの練習課題を認識し、表現及び技術の向上と授業外学習のモチベーションへと結びつくことを意図した授業展開を心がけた。

4. 授業アンケート

本授業終了時、受講者7名を対象に下記の7項目の4段階評定によるアンケートを実施した。

1) 集計結果について

1. 本授業に興味を持つことができましたか。

そう思う 7名

どちらかといえばそう思う 0名

どちらかといえばそう思わない 0名

そう思わない 0名

2. 本授業で用いた教材についてどう思いますか。

適切であった 7名

どちらかといえば適切であった 0名

どちらかといえば適切でなかった 0名

適切でなかった 0名

3. 本授業の進度についてどう思いますか。

適切であった 7名

どちらかといえば適切であった 0名

どちらかといえば適切でなかった 0名

適切でなかった 0名

4. 本授業の難易度についてどう思いますか。

適切であった 7名

どちらかといえば適切であった 0名

どちらかといえば適切でなかった 0名

適切でなかった 0名

5. 授業時間外学習の取り組みはどうでしたか。

充分であった 0名

どちらかといえば充分であった 3名

どちらかといえば充分でなかった 4名

充分でなかった 0名

6. 受講後、新しい知識や技能を得ることはできたと思いますか。

そう思う 7名

どちらかといえばそう思う 0名

どちらかといえばそう思わない 0名

そう思わない 0名

7. 受講後、到達目標は達成できたと思いますか。

そう思う 2名

どちらかといえばそう思う 3名

どちらかといえばそう思わない 2名

そう思わない

2) アンケート結果のまとめ

アンケート結果により、全員の受講者が興味を持って本授業を受講していることがわかった。また、用いた教材、授業における進度、難易度について全員が「適切であった」と回答した。しかし、授業時間外学習については、「どちらかといえば充分であった」、「どちらかといえば充分でなかった」との両回答が見られた。なお、受講後の新しい知識・技能の習得には全員がポジティブな回答であったのに対して、到達目標の達成できたかという質問に対し、7名中2名が「どちらかといえばそう思わない」と回答した。

5. 今後の課題

今後の課題は、本授業において重要であると考えている授業外学習への取り組みについて、受講者が充分には取り組めていなかったとした点にある。まず、各受講者の課題認識が前提となり、その課題に即した練習方法の検討、練習による改善という一連の段階的な流れを体験することが重要となる。しかし、限られた授業時間内において、受講者の課題認識が充分でないまま時間切れとなってしまうケースや、次のステップへ進まなければならないケースが多かった。今後は、授業外学習へのモチベーションをより高められるような授業内容の再構築が求められている。

また、聴講している学生は学びに対する意識が希薄になりやすい環境でもある。授業時間内での時間配分の工夫や全員参加型での授業内容も検討していく必要があると考えている。